

## 20代限定 真剣!しゃべり場

## 「学校への意見、親への思い、そして自分」

学校から社会へ、庇護される立場から自立した大人へ。20代は選択と変化の連続です。そんな激動まったただ中の皆さんに、ここだけの本音を語っていただきました。

【参加者（現在自認しているセク）】

ウメ屋 (M t F) ターコ (模索中)  
きりん (模索中) たあ坊 (F t X)  
八千代 (模索中) ぼんぼん (B)  
によん (G) ひきだし (F t X)  
笑う女 (F t M) 歯ぐるまん (G)

【ルール】

聴くだけ可。○×うちわと「もくひ券」を自由に使ってよい。ここだけの仮名を使用。この場で話したことはこの場に置いて帰りましょう。

【聴く人】りんこ

「まずは学校のことから始めましょう。皆さんが生徒のころ、学校の先生、どうでしたか？」

「高校のときに、やたら『オネエ』を連発する先生がいた。ゲイ||オネエという先生の理解、どうにかしてほしいですね」

「いたいた、そういう先生。ちよつと男の子同士がくっついてたら『お前らホモか』とか」

「トランスジェンダー||性同一性障害とか」

「性的マイノリティ||性同一性障害とか(笑)」

「先生って、やっぱり『人』だと思ふなあ。年とか性別とか関係なく、LGBTを知っていると知らないともあんまり関係なくて。LGBTのことを勉強したとしても、わかってももらえない先生はやっぱりいるんじゃないかなあ」

「自分はF t Xなんだけど、小学校のころ『わたし』というのが言えなくて、自分を名前と呼んでた。そしたら先生から『わたしと

言いなさい』と叱られました」

「それ、自分もあつたよ。その時は自分も小さいから、うまく説明できなかった。どうして『わたし』と言えないのか、一緒に理由を考えてほしかったなあ」

「先生も他の大人も、いったん社会に出てしまふとLGBTのことを学ぶ機会つてないよね、よほど興味のある人以外は。学校にいる間に学ぶ機会があるほうがいいと思うんだけど」

「学校でLGBTの授業、するべきなのかな？」

「してほしくない！あとでみんなが面白おかしくネタにしてしまう。当事者探しが始まって、こっちに火の粉がとんできそう」

「そうなるよね、とくに中学とか高校とかだと。みんなが何だかヘラヘラしちゃいそう」「いきなりされても、逆効果のような気がする」

「LGBTだけとりあげるんじゃないやなくて、多様性を考える授業の中でその一つとしてとりあげるくらいならいいと思うけど」

「障害のある人もいる、国籍の違う人もいる、男も女もいればどっちともいえない人もいる、みたいな、何気ない感じ」

「いろんな人がいるんだよ、ってことで」

「小さいうちなら素直に聞けると思う。幼稚園のころとか。そこから始めるのがいいんじゃない?」

「そうそう。小さいころから少しずつ。中高生にいきなりは無理だと思う」

「マイノリティって『可哀想な人たち』みたいな伝え方されてない? それだけは嫌だなあ。私たちは可哀想じゃない。社会の中で普通に生きてるって伝えてほしい」

「日本って、多数派じゃない人を別の場所に分離すること、多いじゃないですか。障害のある子どもは特別支援学校に、みたいな。ほんとは自分の周りにいろんな人がいるのに気づけない」

「言葉で知識を教えるだけじゃ、けっきょく



他人事になるんだよね。ほんとは、当事者と向き合って話を聴くほうがいい」

「学校って、勉強は教えてくれても、社会で生きていくうえで必要なことは教えてくれないよね。年金とか税金とか保険とか。あ、関係ない? (笑)」

「たとえば学校内にLGBT

啓発ポスターを貼るのはO

K?

「別にいいと思うよ。興味の無い人はそもそも見ないでしょ。」

「これからみんなポスター見よう!」なんてあり得ない (笑)」

「自分は、『自分って何なんだろう』とずっと悩んでた。結局インターネットで『性同一性障害』という言葉を見つけて『これだ!』と思ったんだけど、もし学校のどこかにそういうポスターとかあったら、もっと早くたどりつけたかもしれない」

「でも、『LGBTとは!』みたいなポスターは遠慮したい (笑)」

「『こんなことで悩んでいませんか?』くらいののなら、いいよね」

「できたら、人目につかずにじっくり見られる場所がいい。公衆電話の前に貼ってあって、電話するふりをしながら読めるとか」

「公衆電話、もう学校になくはない? (笑)」

「ポスターに押しピンでいたずらされたり落書きされたりしたら嫌な気分になるから、先生の目が届く職員室近くの廊下くらいでどう?」

「保健室とか」

「ということは、一般啓発ポスターというより、当事者向けのポスター?」

「当事者でない生徒向けに、ポスター貼っても意味ないと思うよ。見ないもん (笑)」

「そのポスターには何を書けばいい? たとえば相談するならここへ、みたいな?」

「うーん。それはそうなんだけど、わざわざつくった相談室って、私は行けなかった。なんか、いかにもって感じで」

「わかるわかる、あいつ何か相談に言ったらしいとか言われるのもいやだし」

「学校に来られなくて、親も相談に来て、ほんとに切羽詰まった子が行くところ、みたいな印象があって、入れないんだよね」

「スクールカウンセラーのところにも、なんだか行けない。そこまで悩んでるのかと言わ

れたら、どうなんだろうって思う。『相談に来ました!』っていうのは何か違うんだよね。なんとなく、いろいろ聴いてほしい、みたいな」

「学校はそれなりに楽しかったけど、聴いてもらえる場所があったら自分も話したかったんだと思う。でも、それは相談室でもないスクールカウンセラーでもない」

「LGBT専門窓口なんて、とんでもない(笑)」

「保健室にはわりと気軽に行けたね」

「保健室の先生には、けっこうギリギリのことまで話してた。もしかしてわかってるのかなあ、どうかなあと思いつつ。それで充分だった。聴いてくれて、『またおいで』と言ってくれて。そしたらそれだけで学校へ行く勇気がでた」

「相談先の電話番号とかアドレスとか書いてあっても、それをメモするタイミングが難しい」

「ポスターに書くなら、『相談したい人は〇〇先生のところまで』とか『保健の先生に相談してね』くらいかなあ」

—正直、学校に期待することはない?

「自分がセクマイだということを差し引

いたら、学校生活はそれなりに楽しかった。だから、期待しないというより、今のままで、まあいいかな、と」

「セクマイの部分は、学校でどうにかなる問題じゃないもんね」

『「お前ホモなん?」って友だちから聞かれたこともある。そういうときは真顔で『違うよ』と否定しました。それしかないし、それで終わればそれでいいし」

「セクシュアリティのことばかり思いつめるとしんどいから、何か夢中になれることとかあると楽だと思う」

「それはあるね。部活でも勉強でも委員会でもいいから、なにか頑張れることがあったら、セクシュアリティのことは忘れられる。いや、忘れられないけど、ちよつと置いておける、っていうか」

—でも、先生にはLGBTの子は見えないから、見えない相手に、夢中になれるようなことを進めることもできないよ

「だから、それが違うんですよ。今の質問はLGBT特別扱い前提でしょ?」

「当事者とか関係なく、どの生徒も何か夢中になったり頑張ったりするようにしないと。そういうのがないっていうのは、LGBTだけ

けの問題じゃないと思いますよ」



—ここから、親との関係についての話題に移ります。遠慮せずに「もくひ券」、使ってくださいね。親へのカミングアウトは?

「うちの親は知らない。言うつもりもない。セクマイにすごく偏見があるから」

「そうそう、ホモって気持ち悪いか平気で言ってるの見てると、とても言えないですね。ボクには『30歳までにはお見合いしろ』とか言ってくる」

「自分自身のこと、が、まだよくわからないからカミングアウト以前の問題もあるんです」  
「わたしは母親には言った。父親は知らない

と思うなあ、理解なさそうだし」

「母親のほうが、わかってくれる感じがするよね」

「うちはそもそも親との関係がよくないから、言うつもりはないです」

「わたしは、もう親に言わなきゃホルモン治療とか遅くなると思って、帰省の時期じゃなかったんだけど親にカミングアウトするために帰った。そしたら『そうじゃないかと思ってた』って。わりとすんなりわかってくれました」

「自分の場合は、カミングアウトしたら『おまえは違うだろう』って言われてしまって。それから本を見せたり手紙をさり気なく落としてみたり、いろいろチャレンジしてやっと理解してもらいました」

「母から父に言ってくれたみたいで、父から『もう孫は抱けないということなのか?』と言われたのは、ちょっとキツかった」

「アンケートの中で『親に対して申し訳ないと思う』という回答があって、なんとも言いえない気持ちになりました。」

「そういうの、ありますね。子どもが結婚して孫ができて、と親は思ってるみたいだから、かなえてあげられないのは、やっぱり…」

「考えが古いかもしれないけど、自分は一人っ子だから、この家は自分で終わってしまう、お墓をみる人もいなくなる、とかいろいろ考えますよ」

「身内でお葬式があつて、その日だけは我慢して『女役割』を演じました。すごくしんどかったけど、あと何時間、あと何分、と自分に言い聞かせて耐えてた。あれは、今思うと、親のために耐えてたのかなと思います」

「自分がこうだということを親は理解してくれても、近所とか親戚とかに親はどう言うんだろう、世間体とかあるのに申し訳ないな、と思うことがありますね」



「その思いは親には伝ええない?」

「それ言っちゃったら、お互い気持ちの持つて行き場がなくなっちゃうじゃないですか。お互い救われない。だから、言えないですよ」

「わたしはこれで幸せに生きていくんだから!みたいな態度とってる。せめてそれしかできないと思って」

「うちの母は、いつも『あなたはあなたの好きなように自由に生きなさい』と言ってくれた。だからカミングアウトもできたし、理解もしてくれました。申し訳ないという気持ちより、自分らしく生きていくことで母も喜んでくれると思ってます」

「うちはカミングアウトしてないから、いつか結婚するよね、みたいな話がよく出ます。適当に話をはぐらかすんですよ、いつも。そのあとで、罪悪感みたいなものを感じてしまいう」

「いつかはカミングアウトしたいと思う。っていうか、しないといけない時期がくるんだろうなと思います」

「カミングアウトしたら『自分の育て方が悪かったのね』って親に謝られた。それは違うんだよ、って説明したけど。謝られたらこっちもまたつらくなるんですよ。」

「ぼくらは、こうやって自助グループとかで

気持ちを吐き出したりできる。でも、カミングアウトされた親は悩みを打ち明ける場所がないでもんね。つらいだろうと思います」「親の会みたいなの、あったらいいですよね」



—今の自分自身についてはどうですか？自分のセクシュアリティは固まった感じ？

「ボクは真正銘のゲイです！（笑）わりと順調に受け入れました（笑）」

「ボクは悩みました。今も、絶対そうかと言われると揺れるところはある」

「わたしは今も自分が何なのかわからない。突き詰めてると落ち込むことが多いです。自

分は何なの？ってモヤモヤして、ほんとしんどい」

「自分は自認が揺れてたけど、今は男で落ち着いてる。これから先もそうかと言われたら、それはわからないですね」

「女の子が好きになったときに、これは普通の友情とは違う、なんだろうって思った。多分ここにいる人にはわかると思う」

「付き合う相手として男性は考えられないけど、女性かと言われたら、それもわからない」

「好きにはなるんだけど、じゃあ付き合うかという、そんな気持ちはもてないですね。好きになる以上のことは、したくない感じかなあ」

「昔は制服のスカートとか『我慢したら着られる』レベルだったけど、だんだん拒否感が強くなってきた。胸なんかとりたいたいと思うことがよくあるし、なんでこんな体なんだろうと思うってキレそうになる。自分は何なのか、わからなくて毎日しんどいです」

「ボクは、自分自身に関して言えば男っぽさが苦手。ヒゲが生えたりするのは嫌ですね。中性的になりたい」

「わたしは男とか女とかに二分されるのが耐えられない。どっちでもない、決めない自

分ってところで今はちょっと落ち着いてる感じかな」

「わたしは物心ついたときから自分は女で、なのに男の枠に入れられるようになってびっくりしました。インターネットが使えるようになって『性同一性障害』という言葉をクリックして、すごく納得した」

「自分は、10代のころすごく揺れてた。女でなきゃいけないと思ってたころは、必要以上に女をアピールしてたというか、女を究めようとしてたというか（笑）。男性と付き合ってた。好きな女性ができて、『ああ、これってすごく自然だな』とあって、やっと落ち着いてきた感じ」

「中学生くらいのころに自分と同じような人と知り合うことができてたら、もう少し楽だったかもしれないなあ」

—これからどうする？どうしたい？

「今、周囲には仲のいいほんの少しの友達にしかカミングアウトしてないんだけど、もっとオープンにしていきたいという気持ちはありますね」

「できるといいんだけど、時期とかきつかけとか、まだかなあ」

「職場でピンクの制服を着てるんですよ。なんか、もういいかなと思って。そしたらやっぱりいろいろな言われますね。全部流してます」

「今は学生だからまだ楽だけど、就職して会社に入ったら、またいろいろあるんだろうな。胸は手術したのでパツと見た感じは男だけど戸籍は変えてないしね」

「とにかく、今のこのしんどさをなんとかしたい。でも、どうすればいいのかわからないんです。我慢がきれそうになったら無料相談電話とかに電話して、やっとここにたどり着いた。いろんな話を聴かせてもらうことで、なんとか自分を鎮めてる感じです」

「セクシュアリティを表現する言葉に自分をあてはめることは必要ないと思うけど、でもまずはどれかにあてはめて自分を納得させるのが楽になる方法かもしれないよね。それから、言葉の枠なんていらない!という気持ちになってくるかもしれないし」

「なりたい自分のモデルを見つけてみるよか」

「人生のパートナーはほしいよね」

「猫でもいいから(笑)」

「好きになっても片思いが多いんですよ。仕方ないですよ。ボクは割り切って片思いを樂しむようにしてます。恋する自分に浸る、

みたいな(笑)」

二時間を超える討論、お疲れさまでした。人によってはしんどい話題もあったと思いますが、自分と向き合うように丹念に、しっかり答えてくださってありがとうございます。

数年前までは見向きもされなかった性的マイノリティが、にわかに注目され始めています。でも、発言力のある人の意見だけが、すべてではありません。その後ろにいる大勢の人の気持ちを無視しないよう、「話したい思い」

「話せない思い」をプラウド岡山は大事にしたいと思っています。

本日参加してくださった皆さん、貴重な意見、大事な気持ちを聴かせてくださって、本当にありがとうございます。

平成28年6月 プラウド岡山